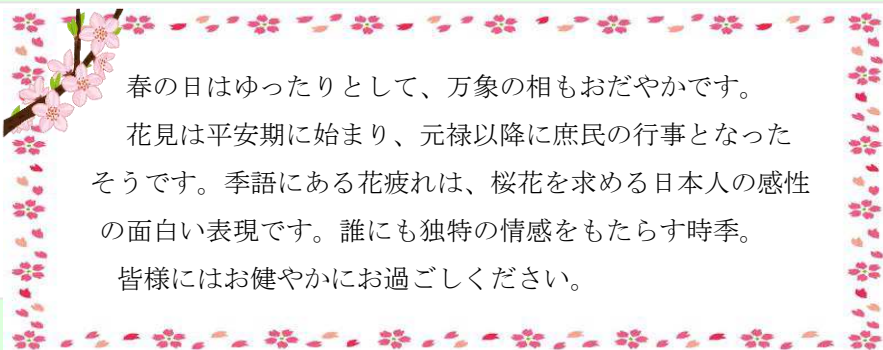




福祉公社は、武蔵野市が全国に先駆け、昭和 55 年に設立した在宅サービス提供機関です。
誌名「羅針盤」はご利用者を包括的に支援し、その人生と共に歩むサービスの基本姿勢を表したものです。



春の日はゆったりとして、万象の相もおだやかです。
花見は平安期に始まり、元禄以降に庶民の行事となった
そうです。季語にある花疲れは、桜花を求める日本人の感性
の面白い表現です。誰にも独特の情感をもたらす時季。
皆様にはお健やかに過ごしてください。

<紙面から>

新年度理事長ご挨拶	・・・1ページ
理事会・評議員会報告	
地域認知症講座	・・・2ページ
みどりの輪・ともしびコンサート	
武蔵野東学園車いす講座	・・・3ページ
お知らせ・リレーコラム	・・・4ページ

平成 29 年度の開始にあたり

皆さまこんにちは。

理事長の萱場でございます。

昨年 4 月に理事長に就任いたしましたから早一年がたち、再び桜の咲く季節が巡ってまいりました。

理事会での議事進行から始まって、いろいろな会議やイベントでのご挨拶、事業執行に関する打ち合わせ、果てはデイサービスでのサンタクロースやフーテンの寅さんの扮装などなど、振り返ってみると慣れない仕事に戸惑いながら、あっという間に過ぎた 1 年であったなあと感じています。

36 年続いてきた福祉公社の看板事業であった有償在宅福祉サービスの経過措置期間がいよいよ終了し、利用者の皆様にはご迷惑をおかけいたしました。他のサービスに完全移行することができました。後期高齢者の増加や景気の動向、コンプライアンス（法令遵守）の厳格化や個人情報の保護、介護保険制度改正などなど外部環境はめまぐるしく変わりつつあり、福祉公社も時代の変化に対応していかなければなりません。

また、事業計画にも記載されていますが、今年度は故山崎倫子先生の遺志を継いで、北町高齢者センターに隣接する旧山崎邸を活用してデイサービスの拡大と子育てひろば事業を実施することとなり、現在 10 月の開設に向けて準備を進めているところでございます。

また、北町高齢者センターは、全国初の単独型デイサービスセンターとして昭和 62 年に開設され、今年 30 周年を迎えます。これを記念して式典の開催と記念誌の発行を予定しています。

理事長として二年目に入り、福祉公社がますます皆様から信頼され、お役に立てる組織となるよう誠心誠意、努力してまいりたいと考えております。

福祉公社を、そして福祉公社の職員を、より一層ご愛顧いただきますよう、よろしくお願ひ申し上げます。



萱場 和裕

理事会・評議員会報告



平成 28 年度第 4 回理事会が 2 月 23 日、評議員会が 3 月 9 日に開催されました。

主な議事は平成 29 年度の事業計画、収支予算の審議でした。事業の重点項目は次の通りです。

1 介護人材の確保策の検討

武蔵野市では一人暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が多く、訪問系サービスの利用が通所系よりも多い実態があります。また 2025 年から始まる団塊世代の後期高齢化に備え、市民の介護ニーズに応えられる安定的な供給体制を確保する必要があります。そのためにケアキャリア制度*₁の見直し等介護人材の確保策の検討を進めます。

*₁ 福祉公社が開催する介護職員初任者研修受講費を修了後一定の実務経験により補助する独自制度

2 旧山崎邸を活用したデイサービスの拡大と子育てひろばの開設

今年度は、北町高齢者センター開設 30 周年を迎えることから、記念式典の開催、記念誌の発行を行います。また、旧山崎邸については、1 階はデイサービスを拡大し、2 階は子育てひろば事業を実施するため、運営ノウハウを持つ団体を公募してまいります。

3 事務事業評価の実施

昨年度は補助器具センターのあり方を検討し、現在ホームヘルプセンター武蔵野のあり方について着手していますが、その他に、現在実施している事業が市民の課題・ニーズに合致した必要な事業か、福祉公社が行うべき事業か、事業に要する経費は適切か等、事業の必要性、効率性・成果を検証し、事務事業の見直しを行います。

4 武蔵野市民社会福祉協議会との連携の推進

昨年度末に取りまとめた福祉公社と市民社会福祉協議会の組織のあり方検討委員会報告書（ホームページご参照、事務局にて配布）では、市民社会福祉協議会との統合は「当面見合わせるべき」、また、「統合せずとも、統合効果を発揮できるよう、連携を進めていく必要がある」としており、市民共助による福祉の推進に向けて「(仮称)事業連携推進委員会」を設置し、連携を推進します。以上の他、創業以来の伝統であるご利用者本位のサービス提供、全人的支援等により、市民の皆様の「住み慣れた武蔵野でいつまでも」を実現するために、各事業に誠実に取り組んでまいります。

地域認知症講座

ききたいことを きいてみよう！ 認知症



超高齢社会の国民的課題の一つが認知症です。正確な知識と心構えが誰にも求められています。そこで、2月27日、中央コミュニティセンターで認知症講座が高齢者支援課と中央コミュニティ協議会の共催で開催されました。高齢者総合センター在宅介護支援センターも協働しました。

講師はその道の権威である、のぞみメモリークリニックの繁田雅弘医師です。

当日は定員一杯の30人が熱心に受講しました。繁田医師は「認知症になったら、自分に何が必要になるのか」の視点から、詳細なレジメに基づき、平易に解説してくださいました。

重点ポイントは、「認知症は自分で相談に行く病気。安心して認知症と付き合いおう。初診の受診先が大切。医療拒否の気持も受容し、利用可能なサービスにつながる。軽度の段階から人と交流し福祉サービスを利用する。サービス利用につながれば症状が進行しても一人暮らしが可能であり人生を全うできる」です。

受講された方々は、「認知症を理解できて、生きる自信がついた」「不安がらずに、穏やかに楽しく暮らしたい」「加齢と認知症の区別が理解できた」「社会制度を上手く活用したい」などなど、安心した表情で学びの感想をお話してました。



家族介護教室「みどりの輪」

おやつとは違う！？ 補食ってなあに？



3月24日、八幡町コミュニティセンターにて、境南クリニック 森川志帆栄養士を講師に迎え、開催しました。

健康長寿の基本はバランスの良い食事です。1日3食の食事だけでは足りない栄養を、「補食」を上手に生活に取り入れて日常の食事作りに活かし、低栄養を予防、改善する目的で、調理実習をしました。現在介護中の方、既に介護を終えた方6名がご参加になり、和気あいあいと補食メニューに取り組みました。

メニューは、「和風カップケーキ、お好み焼き風カップケーキ、豆腐白玉、マシュマロヨーグルト、マシュマロ入りココア」でした。「簡単に美味しく出来た」「たんぱく質を手軽に摂れることが分かった」「水分をこまめに摂るようにしたい」とのご感想。実益ある講座でした。



マシュマロヨーグルトの作り方（1人分）



材 料 プレーンヨーグルト 100g マシュマロ約 10 個

作り方 ①保存容器にヨーグルトとマシュマロを入れ、混ぜ合わせる。

②冷蔵庫に1日置いて出来上がり。

レシピをご希望の方は高齢者総合センター在宅介護・地域包括支援センターまでご連絡ください。 ☎ 51-1974

～ みんなでうたおう！うたごえの集い ～

歌声喫茶‘ともしび’と聞くと、過ぎ去った青春の郷愁を感じ、現役時代の様々な出来事を、多くの方々が思い出すのではないのでしょうか。

戦後の昭和を牽引なさった先輩諸氏に、感謝と敬意を込め、高齢者総合センターの人気企画が3月2日に実施されました。

当日は105名が参集され、過ぎ去った日々にも口ずさんだ曲、懐かしの名曲、高度経済成長の大きなうねりと共に湧きあがった歌などなどを、堪能されました。

デイサービスのご利用者も参加され、楽しいひと時をご来場者と過ごされました。

「あ～っ、楽しかった。若やいだわ！」「会社員時代の思い出がよみがえった」

「何だか心と体が軽くなった？」・・・、皆様は充足したご様子でお帰りになりました。



武蔵野東小学校車いす講座



3月3日、武蔵野東学園小学校で車いすについての授業を補助器具センター職員が担当しました。3年生70名が参加しました。この授業は「心のバリアフリー」の一環であり、様々な不自由のある方々を理解することに主眼を置いています。

最初に車いすについての説明を行った後、2人一組となり実際に車いすに乗り、押ししてもらい、段を昇り降りするという体験をしました。担任の先生が高齢者疑似体験キットを身に付け、車いすを片手片足で操作する場面では大勢の児童が声援を送っていました。少しでもこの講座が未来を担う子供たちの琴線に触れ、共生社会の理解と構築に役立つよう願っています。



会社からのお知らせ

おいじたく講座 ～成年後見制度の基礎知識～

誰にでも訪れる老いに備え、元気なうちから準備して尊厳ある老後生活を築きましょう。

日時 4月27日(木) 13時30分から15時
場所 高齢者総合センター



～エンディングノート講座～

日時 5月15日(月) 13時30分から15時
場所 福祉公社1階会議室

問合せ 在宅サービス課権利擁護センター
・申込 ☎ 23-1165

北町高齢者センター

春のオープンガーデン

園芸ボランティアの皆様が丹精した今を咲き誇る花々をご覧ください。お待ちしております🌸

日時 4月26日(水)
11時から13時

場所 北町高齢者センター
問合せ

☎ 54-5300



職員リレーコラム

第35回 《めぐる春》 社会活動センター 木村 未歩子



春ですね。今年は3月に入っても寒い日、雨の日が続き、いつ暖くなるのかと心配もしました。「春」と言えば、思い出すことがあります。

12年前、山間部に大きな被害をもたらした「中越地震」を覚えておいででしょうか？

当時、私はボランティアで新潟県小千谷市塩谷村に通っていました。地震の年の冬は、19年ぶりの大雪で再び押しつぶされた家が多く、春先は、悲嘆にくれた村人と一緒に片づけに追われていました。そんな時、ふと目を上げると、周りの家々の庭先に、例年と変わらない桜の花が満開でした。ため息の出るような美しさでした。次の週、チューリップもツツジも開花し、山菜も見られ、私は、村の皆さんと大いにお酒を飲み、歌い、春を祝いました。

新しい春、希望に満ちて再スタートする時としたいですね。

⇒ 次回は ホームヘルプセンター武蔵野 土屋 恵津



編集・発行 公益財団法人 武蔵野市福祉公社 次号は平成28年5月10日発行予定です



武蔵野市福祉公社・ホームヘルプセンター武蔵野

東京都武蔵野市吉祥寺北町1-9-1

バス停「武蔵野八幡宮前」下車

☎0422-23-1165 (総務課、在宅サービス課)

☎0422-23-2611 (ホームヘルプセンター武蔵野)

武蔵野市立高齢者総合センター

東京都武蔵野市緑町2-4-1

バス停「武蔵野住宅」下車

☎0422-51-1975 (管理・社会活動センター)

☎0422-51-1974 (在宅介護支援・補助器具センター)

☎0422-51-2933 (デイサービスセンター)

武蔵野市立北町高齢者センター

東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-16

☎0422-54-5300 バス停「北町四丁目」から徒歩三分
業務時間 8:30~17:15 (全て共通)

福祉公社ホームページ

URL <http://www.fukushikosha.jp/>